

事業報告書

(平成30年度)

学校法人 智香寺学園

目 次

1. 法人の概要

(1) 設置している学校・学部・学科等	1
(2) 各学校・学部・学科等の入学者数・在籍者数の状況	1
(3) 役員・教職員概要	2
① 役員	
② 教員	
③ 職員	

2. 事業の概要

(1) 平成30年度事業の概要・実施状況	3
大学部門	
① 自動運転実証実験について	
② 宗門大学としての取り組み「寺フェス」報告	
③ 科学研究費・その他の補助金助成事業	
④ 地域交流計画の実施状況	
⑤ 主な施設設備計画の実施状況	
⑥ キャリア支援センター・就職事業状況	
高校部門	15
■ 卒業生の進路実績	
■ クラブ活動結果	
■ 平成31年度入試結果について	

3. 財務の状況

(1) 概況	19
(2) 事業活動収支の状況	19
(3) 資産負債の状況	20
(4) 連続貸借対照表の状況	21

1. 法人の概要

(1) 設置している学校・学部・学科等

(平成30年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名	開設年度	入学定員 募集定員	編入学定員	収容定員 学則定員
埼玉工業大学	大学院工学研究科 (博士前期課程)				
	機械工学専攻	平成10年4月	6		12
	情報システム専攻	平成19年4月	7		14
	生命環境化学専攻	平成19年4月	7		14
	(博士後期課程)				
	機械工学専攻	平成12年4月	2		6
	情報システム専攻	平成22年4月	2		6
	生命環境化学専攻	平成22年4月	2		6
	大学院人間社会研究科 (修士課程)				
	情報社会学専攻	平成18年4月	10		20
	心理学専攻	平成18年4月	15		30
	大学院小計		51		108
	工学部				
	機械工学科	昭和51年4月	115		460
	生命環境化学科	平成19年4月	110		440
情報システム学科	平成19年4月	135		540	
工学部小計		360		1,440	
人間社会学部					
情報社会学科	平成14年4月	90		360	
心理学科	平成14年4月	50		200	
人間社会学部小計		140		560	
大学合計		551		2,108	
正智深谷高等学校 全日制課程 普通科		昭和32年4月	400		1,200
高校合計		400		1,200	
法人合計		951		3,308	

(2) 各学校・学部・学科等の入学者数・在籍者数の状況

(平成30年5月1日現在)

学校名	学部・学科・課程名	入学定員 募集定員	入学者数	編入学者数	在籍者数
埼玉工業大学	大学院工学研究科 (博士前期課程)				
	機械工学専攻	6	5		12
	情報システム専攻	7	15		26
	生命環境化学専攻	7	7		12
	(博士後期課程)				
	機械工学専攻	2	1		3
	情報システム専攻	2	0		14
	生命環境化学専攻	2	4		5
	大学院人間社会研究科 (修士課程)				
	情報社会学専攻	10	2		5
	心理学専攻	15	5		13
	大学院小計	51	39		90
	工学部				
	機械工学科	115	114		506
	生命環境化学科	110	71		355
情報システム学科	135	230		754	
工学部小計	360	415		1,615	
人間社会学部					
情報社会学科	90	99		309	
心理学科	50	54		205	
人間社会学部小計	140	153		514	
大学合計	551	607		2,219	
正智深谷高等学校 全日制課程 普通科	400	443		1,360	
高校合計	400	443		1,360	
法人合計	951	1050		3,579	

(3) 役員・教職員概要

① 役員

(平成30年5月1日現在)

理事・監事 の区別	職名又は担当職務	氏名	就任年月日
理事 (常勤)	学長	内山俊一	平成23年4月
理事 (非常勤)		浅野義光	平成27年9月
理事 (非常勤)	財務担当	宇都宮孝和	平成19年4月
理事 (常勤)	理事長	松川聖業	平成11年5月
理事 (非常勤)	教育研究担当	佐藤良純	昭和52年7月
理事 (常勤)	学校長	加藤慎也	平成28年4月
理事 (非常勤)		神居文彰	平成19年4月
理事 (非常勤)	財務担当	三輪行雄	平成19年4月
理事 (常勤)		佐藤由美	平成29年4月
理事 (非常勤)		緒方延泰	平成19年7月
理事 (非常勤)		宇高良哲	平成22年7月
監事 (非常勤)		今岡達雄	平成19年7月
監事 (非常勤)		新谷仁海	平成19年7月
監事 (非常勤)		高丹秀篤	平成28年7月

② 教員

()内は兼担を示す

部 門	専任教員	兼務教員	合 計
大学院	(58)		(58)
先端科学研究所	2(19)		2(19)
工学部	49	90	139
人間社会学部	20	63	83
大学計	71	153	224
正智深谷高校	60	41	101

③ 職員

部 門	専任職員	兼務職員	合 計
法人部門	5		5
大学部門	57		57
高校部門	9		9
合 計	71		71

2. 事業の概要

(1) 平成 30 年度事業の概要・実施状況

大学部門

① 平成 29 年 12 月 1 日から深谷市の協力の下、埼玉県内初となる公道に於ける自動運転実証実験を大学周辺の公道に於いて行ってまいりました。おかげさまで自動運転の機能向上を実現することができました。更なる機能向上を目指すため、実験を行う走行範囲を平成 30 年 9 月 1 日よりこれまでより拡大させ、センサのデータ計測や整備などのため実験期間を平成 32 年 3 月 31 日（火）まで延長させました。

また、自動運転は多くのマスコミにも取り上げられ、自動運転実証実験の様子が、新聞・テレビ番組で紹介される機会が増えました。テレビでは平成 30 年 2 月 17 日に BS フジ「ガリレオ X」でとりあげられ、近い将来の実現を目指す自動運転技術の現状と可能性について他の自動運転車の研究とともに紹介されました。

埼玉工業大学が公道で自動運転実証実験を行う走行範囲と期間を変更します

① 走行範囲の拡大
② 実験期間の延長

SAIKO 埼玉工業大学



② 浄土宗の宗門大学として、本学、大正大学、淑徳大学、関東所在の宗立宗門三大学が連携して、仏教を気軽に楽しく体験してもらおうイベント「寺フェス」を昨年度に続き大正大学にて 3 大学が連携し開催しました。

「寺フェス」は浄土宗が宗立・宗門大学と連携して行ってきた「寺院と地域連携」に関するシンポジウムで、第 2 回となった平成 28 年 11 月「仏教の魅力をどう伝えるか」の案として、学生からあげられた「地獄・極楽体験」が原案となり、3 校の教職員と学生有志が主体となって準備を進め、「寺フェス」として具現化し、昨年の本学での成功を受け 2 回目の実施となった。今回も宗立宗門大学の学生ならではの視点で考えた「地獄」と「極楽」を体験してもらい、もっと仏教を身近に感じてもらおうと企画されました。また、寺院関係者をはじめ大勢の方々に学生たちの取り組みを通して、宗門大学の特徴・活動を知ってもらうと同時に、大学間の連携強化をはかりました。



③ 平成 30 年度科学研究費補助金の申請拡大

科学研究費補助金の申請（増）を再度促し、外部資金の拡大を目指す。

※平成 30 年度科学研究費獲得者

研究種目	新規 継続	所 属	代表者	30 年度 直接経費	30 年度 間接経費
基盤研究 (B)	新規	先端科学研究所	内田 正哉	4,200,000 円	1,260,000 円
基盤研究 (C)	新規	情報システム学科	曹 建庭	1,500,000 円	450,000 円
基盤研究 (C)	新規	生命環境化学科	長谷部 靖	2,000,000 円	600,000 円
基盤研究 (B)	継続	先端科学研究所	丹羽 修	4,300,000 円	1,290,000 円
基盤研究 (C)	継続	情報社会学科	佐藤 由美	600,000 円	180,000 円
基盤研究 (C)	継続	情報社会学科	田中 克明	600,000 円	180,000 円
基盤研究 (C)	継続	機械工学科	石原 敦	800,000 円	240,000 円
基盤研究 (C)	継続	生命環境化学科	木下 基	1,000,000 円	300,000 円
基盤研究 (C)	継続	生命環境化学科	秦田 勇二	800,000 円	240,000 円
若手研究 (B)	継続	機械工学科	長谷 亜蘭	500,000 円	150,000 円
若手研究 (B)	継続	機械工学科	小坂 丈敏	1,000,000 円	300,000 円
若手研究 (B)	継続	生命環境化学科	松浦 宏昭	600,000 円	180,000 円
若手研究 (B)	継続	生命環境化学科	本郷 照久	700,000 円	210,000 円
計			13 件	18,600,000 円	5,580,000 円

- ・平成 30 年度「日本・アジア青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプラン）
（A コース：科学技術体験コース）：国立研究開発法人科学技術振興機構
負担対象費用確定額：2,204,662 円 返還額：43,430 円

- ・研究成果展開事業 地域産学バリュープログラム（国立研究開発法人科学技術振興機構）
研究開発課題名：「放電とマイクロバブルを利用した衝撃波選択的微細金属バリ取り技術の研究開発」
期 間：平成 30.4/1～9/30
研究者：工学部機械工学科 小坂丈敏講師
研究費：668,000 円（内間接経費 10%）

④ 地域交流計画の実施状況

高等学校との教育連携について

相互の教育交流を通じ高校生の視野を広げ、進路に対する意識及び学習意欲を高めるとともに大学・高校の求める学生像・生徒像及び教育内容への理解を深め、かつ、大学教育、高校教育の活性化を図るために教育協定を推進している。

【平成 30 年度までの教育連携協定校 38 校】

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1. 智香寺学園正智深谷高等学校 | 20. 群馬県立太田工業高等学校 |
| 2. 埼玉県立久喜工業高等学校 | 21. 埼玉県立皆野高等学校 |
| 3. 埼玉県立深谷商業高等学校 | 22. 群馬県立吉井高等学校 |
| 4. 埼玉県立熊谷工業高等学校 | 23. 埼玉県立川越工業高等学校 |
| 5. 埼玉県立児玉白楊高等学校 | 24. 埼玉県立大宮工業高等学校 |
| 6. 埼玉県立寄居城北高等学校 | 25. 平方学園明和県央高等学校 |
| 7. 埼玉県立深谷高等学校 | 26. 埼玉県立川口工業高等学校 |
| 8. 埼玉県立深谷第一高等学校 | 27. 埼玉県立浦和工業高等学校 |
| 9. 群馬県立伊勢崎工業高等学校 | 28. 埼玉国際学園（日本語学校） |
| 10. 群馬県立前橋工業高等学校 | 29. 埼玉県立羽生第一高等学校 |
| 11. 長野県坂城高等学校 | 30. 大妻学園大妻嵐山高等学校 |
| 12. 山梨県甲府市立甲府商科専門学校 | 31. 埼玉県立滑川総合高等学校 |
| 13. 埼玉県立秩父農工科学高等学校 | 32. 埼玉県立狭山工業高等学校 |
| 14. 埼玉県立妻沼高等学校 | 33. 栃木県立宇都宮工業高等学校 |
| 15. 群馬県立高崎工業高等学校 | 34. 埼玉県立新座総合技術高等学校 |
| 16. 群馬県立藤岡工業高等学校 | 35. 桐生市立商業高等学校 |
| 17. 群馬県立藤岡中央高等学校 | 36. 埼玉県立熊谷西高等学校 |
| 18. 日々輝学園高等学校 | 37. クラーク記念国際高等学校 |
| 19. 埼玉県立進修館高等学校 | 38. 長野県上田東高等学校 |

公開講座・地域連携事業・高大連携

・公開講座・地域連携事業

講座名	テーマ	講師	参加人数
埼玉工業大学公開講座 (6月8日～6月30日)	・英語コミュニケーション講座（日常会話）	レディイオサフラン木村 氏	22 人
	・親子で学ぶエンジニア講座「機械の SOS！～ 機械の病気を診断する技術～」	長谷准教授	18 人
	・キッズ向け体験学習講座～「スクラッチ」で ゲームプログラミング	古谷准教授	21 組 43 人
	・バイオテクノロジー講座 ヒトの暮らしを良 くするために、微生物の多彩な機能を利用す る！	秦田教授	26 人
	・「親子で参加」キッズ向け体験学習講座～「ビ スケット」で簡単プログラミング！	松田准教授	13 組 29 人
	・異文化理解講座	宮井教授	48 人
	・地球温暖化防止講座	本郷准教授	36 人
	・現代の物理学講座	佐藤教授	39 人
SAIKO フェア (10月7日)	・研究展示（4研究室） ・集まれ科学実験プロジェクト（学生プロジェクト） ・高大連携・地域連携のブース ・深谷商業高、寄居城北高、熊谷西高校、坂城高校	前田研究室 古谷研究室 檀上研究室 中川研究室 井門特任教授	——
	埼玉県産業教育フェア (11月17日・18日)	・大学と各研究室紹介	岩崎教授 長谷部教授 井門特任教授

埼玉県・深谷市との連携事業

講座名	内 容	講 師	参加人数
子ども大学ふかや (8月4日～11月3日)	8/4 【入学式】 【はてな学】「身近なものでモーターを作ろう!!」 8/24 【ふるさと学】「工場見学」アイスクリームが できるまでのひみつ 10/6 【はてな学・生き方学】 ①「人のからだ「みる」「きく」を学んでみ よう！」 ②「包帯をまいてみよう！」 10/20 【はてな学】「科学と遊ぶ、子ども大学ふか や！」 11/3 【ふるさと学】すいとん作り 【成果発表会】・【成果発表会を楽しもう！】 【修了式】	埼玉工業大学 埼玉工業大学 (石崎先生) 赤城乳業(本庄市) 東都医療大学 東都医療大学 埼玉工業大学 (松浦先生) 深谷青年会議所 埼玉工業大学 埼玉工業大学	50人
ふかや市民大学 (10月20日)	「犯罪の加害者と被害者の心理について考え る」	小野教授	—

・高大連携校との連携授業(協定校)

高校名・講座名	テーマ	講 師	参加人数
日々輝学園高等学校 (5月14日)	・連携授業	井門特任教授	15人
埼玉県立熊谷工業高等学校 第1学年集会講演会 (5月18日)	・人権対策講座	宮井教授	300人
群馬県立伊勢崎工業高等学校 バス見学 (6月12日)	・大学紹介 ・生命環境化学科講義体験 ・施設見学	石川教授 長谷部教授 松浦准教授 秋田講師	36人
群馬県立前橋工業高等学校 バス見学 (6月13日)	・模擬授業 ・施設見学	松井教授	42人

高校名・講座名	テーマ	講師	参加人数
埼玉県立熊谷西高等学校 (6月23日)	・体験授業 (CG作成) ・施設見学	井門特任教授	40人
日々輝学園高等学校 (7月23日)	・連携授業	古谷准教授	8人
群馬県立高崎工業高等学校 インターンシップ (7月23・24日)	・大学紹介及び学科紹介 ・生命環境化学科施設見学 ・実験実習	岩崎教授	3人
埼玉県立深谷第一高等学校 (7月27日)	・体験授業 (高校化学部)	浜名教授 石川教授 木下准教授	13人
埼玉県立寄城北高等学校 インターンシップ (7月30日)	・大学紹介及び授業体験 ・施設見学	井門特任教授	27人
埼玉県工業教育研究会の 会員校生徒対象 (熊谷工業高校機械科) (8月6日)	・連携授業 (3Dものづくり基礎講座他) ・施設見学	森沢教授	12人
埼玉県立深谷高等学校 (8月8~9日)	・連携授業 (パソコン教室)	松田准教授 植竹氏	26人
埼玉県立深谷高等学校 (8月27日・28日)	・連携授業体験	前田准教授	42人
埼玉県立羽生第一高等学校 (8月27日)	・連携授業体験	石崎准教授	15人
日々輝学園高等学校 (9月5日)	・連携授業 (情報とネットワーク) ・施設見学	田中准教授	28人
栃木県立宇都宮工業高等学校 (10月3日)	・連携授業	井上准教授	320人
埼玉県立熊谷西高等学校 (10月9日)	・連携授業	井門特任教授	46人
群馬県立藤岡中央高等学校 バス見学会 (10月11日)	・大学説明 ・機械工学科紹介 ・生命環境化学科紹介・体験講義	福島教授 熊澤教授	43人
群馬県立伊勢崎工業高等学校 (10月16日)	・大学概要説明 ・機械工学科：模擬講義及び研究室訪問 ・生命環境化学科：模擬講義及び研究室訪問 ・情報システム学科：模擬講義及び研究室訪問 ・入試概要説明 ・施設見学	長谷准教授 長谷部教授 古谷准教授	24人

高校名・講座名	テーマ	講師	参加人数
桐生市立商業高等学校 (11月20日)	・(情報)体験授業	井門特任教授他	42人
群馬県立高崎工業高等学校 (12月11日)	・大学講義体験 ・施設見学	岩崎教授 石川教授 田中教授 丹羽教授 熊澤教授 木下准教授 本郷准教授	40人
群馬県立太田工業高等学校 (12月13日)	・情報システム学科紹介 ・模擬授業 ・施設見学	青木教授	78人
群馬県立藤岡工業高等高校 (12月14日)	・大学説明 ・機械工学科体験授業 ・情報システム学科体験授業 ・施設見学	石原教授 関口准教授	39人
埼玉県立児玉白楊高等学校 (12月18日)	・機械工学科紹介 ・模擬授業 ・生命環境工学科紹介 ・体験授業 ・施設見学	福島教授 石川教授	39人
日々輝学園高等学校 (12月25日)	・連携授業体験	井門特任教授	15人
埼玉県立川越工業高等学校 (1月16日)	・大学紹介 ・機械工学科紹介 ・模擬授業	石原教授	78人
埼玉県立熊谷工業高等学校 インターンシップ (2月5日～2月8日)	・大学構内見学及設備メンテナンス ・大学案内及びホームページチェック ・PC清掃他 ・電気施設関係点検他	教育研究協力課 企画広報課 情報基盤センター 管財課	3人
日々輝学園高等学校 (2月4日)	・連携授業体験	井門特任教授	15人
埼玉県立秩父農工科学高等学校 バス見学 (2月6日)	・大学講義体験	福島教授 河田准教授 橋本教授 井門特任教授	80人
桐生市立商業高等学校 (2月21日)	・体験授業	井門特任教授他	40人

高校名・講座名	テーマ	講師	参加人数
埼玉県立妻沼高等学校 (3月13日)	・高大連携事業「埼玉工業大学授業体験」	熊澤教授 関口准教授 小寺教授 高坂准教授 小野教授 曾我教授	118人

・坂城町との連携事業

講座名	内容	講師	参加人数
坂城高校文化祭 (8月26日)	葛尾祭での出品・出展	教員5名 学生3名	
坂城町PRと交流の促進 (10月6日)	埼工大秋桜祭ブース出展 <特製品(りんご)販売>		——
坂城高校 (10月7日)	埼工大秋桜祭出展と大学見学		14人参加
坂城高校 (1月23日)	SNS講演会「LINEの危険性」	井門特任教授他	1年生全員
さかきふれあい大学での講座 坂城町講座 お出かけ編 (小学生対象) (3月9日)	「世界遺産「富岡製糸場と埼玉工業大学を見学しよう」	井門特任教授	20人
おもしろ理科実験 (3月20日)	・味の不思議を体験しよう ・色が変わるふしぎな水 ・化学者は分子をいじる！ ・超低温のふしぎな世界	熊澤教授 石川教授 田中教授 秋田准教授	40人
坂城町との連携会議 (3月28日)	事業計画の協議、事業実績評価報告	井門特任教授 吉澤教授 石崎准教授 古谷准教授 井上准教授 秋田講師 事務局3名	——

・臨床心理センター

セミナー名	テーマ	担当	参加人数
土曜セミナー	絵本と箱庭療法（6月16日）	三浦教授	85人
	アニメーションと心理学（7月21日）	曾我教授	77人
	自律訓練法の効用と応用（9月15日）	巖岩教授	96人
	心理学の歴史（誕生編）（10月20日）	友田教授	74人
	発達の非定型化時代（11月17日）	藤巻准教授	73人
ワークショップ	心理学実験を体験してみよう（9月1日）	曾我教授	11人
	箱庭療法の体験（5月31日～全5回）	三浦教授	述数20人
幼児グループ	子育て支援（年25回）	友田教授 藤巻准教授	延べ幼児数158人 延べ保護者数118人

・科学と仏教思想研究センター

公開セミナー 日本仏教の瞑想（2）（12月1日） 宮井教授

⑤ 主な施設設備計画の実施状況

【大学】

1号館（122・132・136室）改修工事	35,748千円
6号館2F西系統・3F空調設備更新工事	15,745千円
6号館2F東系統空調設備更新工事	3,672千円
19号館北B駐車場外周通路及びU字溝改修工事	4,249千円
19号館1922・1945室（大山研究室・実験室）改修工事	1,015千円
22号館1F系統空調機空冷チラー圧縮機他修繕工事	2,100千円
24号館火報受信機本体交換工事	1,400千円
25号館守衛所北側ガレージ修理工事	1,296千円
26号館4F入試課床・壁改装工事	1,598千円
26号館2・6・7F空調設備更新工事	47,844千円
27号館1F西側内壁及び床改修工事	1,223千円
外灯LED交換工事	1,884千円

合計12件

【岡部校舎】

臨床心理センター4F卓球練習場照明器具LED交換工事	1,412千円
臨床心理センター屋上・上屋等防水改修工事	5,616千円
卓球道場1F寮室ドア交換改修工事	1,198千円
台風被害屋根緊急工事（臨床心理センター・卓球道場）	1,036千円

合計4件

⑥ キャリア支援センター・就職事業状況

地域交流（長野県及び坂城町等）

- (1) 坂城町及び財団法人さかきテクノセンターとの連携協定に係る事業に基づき、就職活動を控えた3年生を対象に2日間企業見学を実施し、工学部を中心に学生が参加した。参加人数9月6日（20名）・9月7日（20名）
- (2) 2月の「企業研究セミナー」に、坂城町の企業8社、岡谷市2社、上田市4社、茅野・諏訪からも3社が参加した。

学生就職支援講座・ガイダンス

- (1) 公務員対策講座は、8月～9月に「筆記試験対策講座」を集中的に開講し、2月～3月上旬直前対策講座を設け、受講者を対象に全国公開模擬試験（地方上級・大卒公安型）を学内において実施した。
- (2) 1年生は、入学後に就職ガイダンスを実施すると共に、適性検査を受けた。更に、3年後の就職活動を見据え、進路希望登録（SAIKOナビ）の登録を実施した。また、これからの学生生活を充実して過ごしてもらうため、希望者には個別面談を実施した。2年生は、就職ガイダンス、インターンシップガイダンス等を実施した。3年生は、前期には各種就職試験模試、インターンシップガイダンス、Uターンを考える講座を実施、後期には就職ガイダンスのほかに、様々な就職活動準備講座を実施した。（(3)以下参照）
- (3) 具体的には、自己分析講座、エントリーシート作成講座、業界研究講座（基礎①・②）、ビジネスマナー&面接基礎講座、合同企業説明会の参加の仕方講座など、多岐に渡る講座を実施した。さらに、少人数制講座として、「自己PR作成講座」12回、「一日で学ぶ就活マナー+面接対策講座」5回、「志望動機作成講座」8回、「集団面接ブラッシュアップ講座」を2回実施、「個別面接対策講座」を15枠実施し、就職活動に意欲的な学生のニーズに対応。また、履歴書用写真撮影を12月（年内）と1月に実施し、早期化している就職活動に備えた。スーツ相談コーナーを設置し、就職活動用スーツの着こなし等について個々の相談に対応した。さらに、地方Uターン就職を希望する学生向けには、Uターン就職コーナーを年数回実施し、厚生労働省委託の業者や自治体担当者と面会できる環境を整備した。
- (4) 筆記試験対策としては、e-ラーニング（SAIKOドリル）形式、講師から解説を受ける講座（「SPI基礎講座」「SPI一日集中対策講座」）の二つを準備し、学生が好きな方を選択して学習できる環境を準備した。
- (5) 12月に大手企業を集め「業界研究セミナー」を実施した。
- (6) 2月には、「企業研究セミナー」を5日間開催し、延べ1,112名が参加した。
- (7) 学生課の協力を得て、9月に留学生ガイダンスを実施した。留学生就職ガイドブックを配布、日本での就職活動や就労ビザについて、ハローワーク新宿の担当者から説明して頂いた。

関東地区大学理工系就職研究会

- (1) 年間 4 回の研究会を開催し、各大学の取り組みや就職に関する情報交換を行った。
- (2) 7 月 4 日に工場見学会、10 月 17 日・18 日に地方セミナーを実施し、企業担当者との情報交換を行った。

埼玉就職問題協議会

- (1) 年間 2 回の協議会を開催し、各大学の取り組みや就職に関する情報交換を行った。
- (2) 8 月 8 日に埼玉県大学就職問題協議会加盟 17 大学の主催で、埼玉県中小企業家同友会・埼玉県情報サービス産業協会・りそな銀行の関係 3 団体の協力を得て、17 大学合同企業説明会をさいたま市のホテルブリランテ武蔵野にて開催した。50 社の企業が集まり、本学から 16 名の学生が出席した。

各県就職情報交換会

- (1) 群馬県・長野県・栃木県等、各県主催の就職情報交換会に出席し U・I ターン就職希望者への情報とした。
- (2) 埼玉県・群馬情報サービス産業協会主催の意見交換会に参加した。

合同就職説明会及び個別就職説明会

- (1) 未内定者を対象に学内で 3 月～7 月、10 月～11 月の期間、個別説明会と一次選考を延べ 86 社実施した。

講義

- (1) キャリア支援科目の講義を前期に 6 コマを実施。3 年生 384 名、1 年生 328 が履修。挨拶の訓練、グループディスカッションの実践、履歴書の書き方修得、短時間での文章執筆、論理的思考の基礎修得等、就職支援を目的とする講義を実施。

海外研修引率

- (1) 3 年生を対象とした本学主催・協力のアジア研修を実施。春・夏の 2 回で合計本学の学生 32 名を引率。

夏：LETS (Leadership Education & Training program for Students)

日 程：事前研修 7/22、本研修 8/09-8/17、事後研修 9/09

開催地：ベトナム (ダナン、ホイアン)

夏：LETS (Leadership Education & Training program for Students)

日 程：事前研修 8/05、本研修 8/23-9/01、事後研修 9/16

開催地：スリランカ (コロンボ、キャンディ)

春：GET (Global Education Tour)

日 程：事前研修 2/24、本研修 3/23 -3/30、事後研修 4/14

開催地：タイ (バンコク、アユタヤ)

交換留学協定

- (1) ベトナム国立ハノイ国家大学外国語大学との友好協定に基づき、本学の2名の学生が交換留学で渡航・帰国。

学生面談

- (1) 3～5月がピーク。キャリア支援センターの教員やキャリアカウンセラーが担当。ピーク時は1人の教員が1日約20名の学生に対して進路指導、書類添削等を実施。

その他の事業

- (1) 埼玉産業労働部の補助事業として、3年生を対象に埼玉県企業（日本メタルガスケツト㈱・JR 東日本大宮総合車両センター）の工場見学会を行った。併せて群馬県企業（サンデン㈱・ヨコオデイリーフーズ㈱）の工場見学も実施した。埼玉28名、群馬27名の学生が参加した。
- (2) 5月19日（土）に3年生保護者対象の就職ガイダンスを実施した。3年生保護者150人の参加があった。
- (3) 7月に未内定者の保護者宛に学内での合同企業説明会の案内を行った。
- (4) 平成25年度より週3日キャリアカウンセラーによるカウンセリングを実施している。平成28年度よりカウンセラーと就職課職員による研究室訪問も実施した。
- (5) 3年生の就職活動が活発になる年度末に本学独自で雇用したキャリア・アドバイザーの個人面談を週4日実施した。
- (6) 諏訪圏地元企業・高校教員との情報交換会を実施した。

高校部門

■卒業生の進路実績

平成30年度卒業生446名の進路状況は以下の通りとなりました。毎年、目標として掲げている「国公立大学30名合格」を実現することは叶いませんでしたが、最低限の達成目標である20名の生徒を国公立大学合格へと送り出すことができました。しかしながら、今年度入試については、都内を中心とする人気上位大学（早慶上理・GMARCH・日東駒専など）の定員遵守の影響が大きく出る結果となりました。昨年までの成績判定では合格レベルにあったはずの生徒が不合格になったり、下位レベルの大学の著しい難化など、従来のデータを大きく覆す結果となった大学が多数ありました。今後もこの傾向は続くものと考えられることから、来年度の入試に関しては、確実に合格レベルに到達するための成績目標の上方修正が必要となります。また、2020年度の大学入試改革を見越して、来年度は現役志向による志望校選択が多くなるものと想定されます。同時に指定校推薦の絞込みも各大学で始まってきていますので、全校を挙げた学力レベルの向上が急務となってきています。

埼玉工業大学への進学については、目標数値である内部進学者45名には届かない結果となりました。入学金免除、初年度授業料半額免除の優遇制度については浸透してきているものの、指定校推薦による他大学への進学希望者が多い現状にあまり大きな変化は無く、内部進学者数の伸び悩みが続いています。引き続き、附属大学進学の魅力と経済的な優遇措置、埼玉工業大学の就職実績等についての認知度を高め、一人でも多くの生徒が、進路選びの選択肢として考える働きかけをしていきたいと考えています。

◆卒業生進路状況

	27年	28年	29年	30年
卒業生数	373	340	314	446名
四年制大学	72.9%	72.6%	78.0%	71.1%
短期大学	2.9%	2.1%	1.9%	1.8%
専門学校	13.4%	11.8%	11.5%	13.2%
就職	6.2%	7.6%	5.7%	6.7%
進学準備	4.6%	5.9%	2.9%	7.2%

◆四年制大学

	27年	28年	29年	30年
国公立大学	32	22	14	20
私立大学	416	404	308	426
合計	448	426	322	446

◆国公立大学合格者 20名 ※（ ）内は既卒生

東京学芸	1	横浜国立	1	埼玉	5	群馬	3	宇都宮	1
北海道教育	1	信州	1	富山	1	埼玉県立	1	前橋工科	1
都留文科	3	防衛医科	1						

◆私立大学合格者 426 (12) 名 ※（ ）内は既卒生

埼玉工業	34 (1)	法政	17	日本女子	2
早稲田	6 (4)	立命館	2	東京都市	2
上智	1 (1)	成蹊	3	東京農業	1
東京理科	2	成城	3	日本	10 (2)
明治	4 (1)	明治学院	2	東洋	42 (1)
立教	2	芝浦工業	3	駒澤	7
青山学院	2	武蔵	4	文教	16
中央	2	獨協	5	東京電機	12
学習院	1	國學院	1	その他の私立大学	240 (2)

◆主な就職先

警視庁	1	埼玉県警	2	日立金属	1	西武鉄道	1	ニコン	1
自衛隊	4	日本郵便	1	スバル	1	秩父鉄道	1		

■平成30年度からの新たな取組み

(1) 教育改革推進委員会「SHIP委員会」による取組み

(A) キャリア・グローバル教育 【G-CATプログラム】

- ①グローバルビジョンセミナー（年間2回実施）
- ②キックオフキャンプ（ICT基礎教育・チームビルディング・宗教研修）
- ③企業訪問プログラム（13系統のビジネス分野から各自が選択し、11月に都内の企業を訪問）
- ④グローバル・キャリアアカデミックツアー 【探求型研修旅行】
 <<希望選択制/6コース>>
 ニューヨーク/シリコンバレー/シンガポール/インド/カンボジア/石垣島
- ⑤多様な体験プログラム（キャリア講演会・ロジカルシンキング講座）

(B) 21世紀型学力の追求

- ①PBL等のアクティブラーニングの授業の実施
- ②ICT教育の充実（iPadを用いた授業の実施：公開授業/研究授業）
- ③土曜講座（SSS）と英語外部試験対策の充実
 【特別進学系】 検定試験対策を見据えたネイティブと英語科教員とのチームティーチング
 大学入試改革を見据えた「国語」「数学」
 【総合進学系】 外部検定試験対策を見据えたネイティブ講師による授業
 アクティブラーニング型教材の採用「エナジード」「基礎学」
- ④実験数学（1・2年）
 ・確率をテーマに実際にサイコロを使い、手を動かし、数をこなすことによって『確率』の意味を考えさせる。数学とは、実際の生活の中で役立つ学びができる教科であることを知る。

(2) 入試広報室による取組み

(A) 映画館での学校CM上映

- ・「熊谷シネティアラ21」と提携し、本校生徒が制作に携わった学校コマーシャルを映画予告編の前に、全スクリーン（11面）で上映。生徒たちから成るCM制作委員会が2ヶ月半かけ、プロの監督、俳優ともに企画から撮影まで携わった。完成した作品には、謎解きも含まれ、中高生を中心に話題となった。

(B) ICTを活用した生徒募集活動

- ①iPadを用いた個別相談の実施
- ②ネット出願の採用（紙ベースの出願書類の廃止）

(3) 産学連携事業の実施【協定先：大塚製薬】

- ①PTA総会における講演会の実施。「朝から力を発揮する働き世代の栄養睡眠リズム」。
- ②スポーツ系を対象とした特別講座の実施。「スポーツ時の水分補給と栄養補給（朝食学）」。
- ③学校行事における協力（ポカリスエット/カロリーメイトの協力）
- ④新製品のモニター提供（ボディメンテウォーター/カロリーメイトゼリー/賢者の食卓）

(4) 埼玉工業大学との高大連携

- ・教員志望学生を対象とした「学校インターンシップ」の実施。

(5) 深谷市との「災害時における応援協定」の締結

- ・災害時に避難場所として本校体育館を提供することに加えて、本校で備蓄する飲料水を有事の際に無償で提供する応援協定を深谷市と結んだ。提供する飲料水は、地元深谷の水「ふっか水」を使用し、本校と深谷市オリジナルの500ml ボトルを常時12,000本を災害時に提供できるように準備している。

(6) 業務の改善

- ・週1回の研究日を導入。研修会やセミナーへの参加、実践研究などを通じて自己研鑽を図る。
- ・iPadを用いたペーパーレス会議の導入
- ・会議の効率化とエコ化（運営会議・職員会議他）

(7) 地域との連携

①桜ヶ丘小学校との連携

- ・学校応援団「桜っ子サポーターズ」としての連携を通じ、深谷市小学校親善運動会や親善サッカー大会などの行事に向けた練習会に本校陸上部やサッカー部の顧問、部員が参加。また、放課後学習会への参加も要請されており、今後も桜ヶ丘小学校との繋がりを深めていくため検討を進めている。

②ロータリークラブとの連携

- ・深谷ロータリークラブと本校インターアクトクラブとの連携を中心に、奉仕活動に取り組んでいる。深谷駅前花壇の植えかえ（年数回）、西日本豪雨義援金街頭募金活動、こども食堂でボランティア等へ部員が積極的に参加し、地域と連携しながら次世代のリーダー育成に力を注いでいる。

③福祉施設との連携

- ・学校行事で生徒・教職員が持ち寄った食料品を分配し、市内の福祉施設へお届けしている。生徒会のメンバーを中心に、ボランティア活動の一環として取組みを進めている。

■クラブ活動結果

(1) 全国大会出場

男子バスケットボール	高校総体（インターハイ）・全国選抜大会（ウインターカップ）
男子バレーボール	高校総体（インターハイ）
男子ゴルフ	全国高等学校ゴルフ選手権（個人）
女子卓球	高校総体（インターハイ／団体・シングルス・ダブルス）・全国高校選抜大会
女子バスケットボール	高校総体（インターハイ）

(2) 関東大会出場

男子バスケットボール	男子バレーボール	女子バレーボール	女子バスケットボール
女子卓球	軟式野球	ゴルフ（男子）	ゴルフ（女子）
山岳（女子）	山岳（男子）	吹奏楽（ソロコンテスト）	

■平成 31 年度入試結果について

一昨年、昨年と募集定員を大きく上回る 450 名超の新入生を迎える年が続きましたが、今年度の生徒募集においては、残念ながら募集定員を 30 名ほど下回る結果となりました。その要因として想定される点は多々あるものの、それら一つ一つが正解であるか否かについて、明確な答えを得ることは極めて困難です。県北地区に位置する本校を含めた私立 4 校の募集状況を見ると、4 校合計の入学者数が、前年度に対して 150 名以上減少している状況があります。合わせて、近隣公立高校の倍率は軒並み低く、併願受験者の多くが公立高校に進学したものと推測されます。そうした意味では、今後、併願者数の増加を目指したところで、安定的な生徒数の確保につなげることは極めて難しいと考えられます。それを打破するためには、本校を第一志望とする単願希望者数を確実に確保していくことしか、解決の方法はありません。そのためには、公立高校はもちろん、他の私立高校との圧倒的な差別化を図り、他校には無い本校ならではの魅力を示していくことしかありません。大学進学やクラブ活動の実績は取り組んだ結果に対する評価ですが、現在取組みを進めている（キャリア・グローバル教育 GCAT）や ICT 教育（iPad の活用）などをオンタイムで発信していくことで、本校の新しい教育内容を伝えていくことが可能です。こうした現在の取組みの徹底と情報発信を丁寧に行い、地道な募集活動の積み重ねこそが、安定的な生徒募集につながっていくことと信じています。今後も教職員一丸となって、教育活動に励んでいく所存です。

平成 31 年度入学者数

系統	コース	学力目安	募集定員	入学者	強化クラブ生徒
特別進学	S	65	30 名	13 名	(4 名)
	H	60	90 名	18 名	
総合進学	I	55	120 名	116 名	(39 名)
	P	50	120 名	183 名	(78 名)
合計			360 名	330 名	(121 名)

3. 財務の概況

(1) 概況

平成30年度資金収支の状況は、学生生徒等納付金収入はここ数年同様大きな変動なく推移した。大学の令和元年度入試が定員を大きく超える状況になったため、手数料収入、前受金収入が増加した。高校は学生数の増加に伴い運営費補助金及び父母負担軽減補助金が増加し、その他施設関係の補助金2件を得た。また支出面では、平成28年度で大きな設備投資も完成したことにより、施設関係支出、設備関係支出において大きな支出がなく推移した。

学生募集の状況は、大学においては平成30年度は両学部において定員を確保することができ、安定した収入を得られる状況となった。令和元年度生においてもは工学部で定員を大きく超える学生が入学したため、令和元年度では補助金収入に影響が出ることとなる。また、人間社会学部でも定員を確保することができた。高校においても平成30年度は定員を大幅に超える実績を示したが、令和元年度生は一転定員を確保できない状況となり、収支上の影響が出ると考えられる。

(2) 事業活動収支の状況

事業活動収入（以前の帰属収入）では、前年対比75百万円の増加で4,537百万円、事業活動支出は前年対比37百万円減少となり4,486百万円、基本金組入前当年度収支差額（以前の帰属収支差額）は62百万円の支出超過から51百万の収入超過へと変わった。

主要科目での前年度比較は以下のとおり

	H29年度	H30年度	増減
学生生徒等納付金	3,426	3,427	1
補助金(施設設備含む)	761	776	15
人件費	2,459	2,460	1
(退職金)	(117)	(136)	(19)
教育研究経費	1,586	1,597	11
(内減価償却費)	(569)	(553)	(△ 16)

連続消費収支の状況 ～平成26年度まで (単位 百万円)

科 目	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
帰属収入合計 (A)	4,232	4,320	4,351	4,867	4,986
(内 学生生徒等納付金)	(3,123)	(3,346)	(3,359)	(3,520)	(3,531)
(内 補助金)	(811)	(660)	(761)	(978)	(1,046)
基本金組入額	278	267	180	558	628
消費収入合計 (B)	3,954	4,053	4,171	4,309	4,358
消費支出合計 (C)	4,259	4,198	4,198	4,515	4,471
(内 人件費)	(2,503)	(2,502)	(2,417)	(2,655)	(2,622)
(内 教育研究経費)	(1,276)	(1,264)	(1,322)	(1,366)	(1,415)
消費収支差額 (B)-(C)	△305	△145	△27	△206	△ 113
帰属収支差額 (A)-(C)	△27	122	153	352	515

連続事業活動収支の状況 H27年度～

科目名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減
教育活動収入 (A)	4,530	4,487	4,435	4,497	62
(内 学生生徒等納付金)	(3,506)	(3,421)	(3,426)	(3,427)	(1)
(内 補助金)	(673)	(721)	(761)	(768)	(7)
(その他)	(351)	(345)	(248)	(302)	(54)
教育活動支出 (B)	4,431	4,495	4,480	4,479	△ 1
(内 人件費)	(2,606)	(2,560)	(2,459)	(2,460)	(1)
(内 教育研究経費)	(1,456)	(1,485)	(1,586)	(1,597)	(11)
教育活動収支差額(A)-(B)	99	△ 8	△ 45	18	63
教育活動外収入 (C)	5	4	4	1	△ 3
教育活動外支出 (D)	15	13	10	7	△ 3
教育活動外収支差額(C)-(D)	△ 10	△ 9	△ 6	△ 6	0
経常収支差額 (決算)	89	△ 17	△ 51	13	64
特別収入 (E)	268	297	22	38	16
特別支出 (F)	5	1	33	0	△ 33
特別収支差額(E)-(F)	262	296	△ 11	38	49
基本金組入前当年度収支差額	350	279	△ 62	51	113

(3) 資産負債の状況

今年度の資産負債の状況は、総資産で31百万円の減少、総負債は81百万円の減少となり、純資産で51百万円の増加となった。

固定資産は、有形固定資産で投資額306百万円(現物寄付を含む)に対し、減価償却・除却等で600百万円の実績で294百万円の減少、特定資産、その他の固定資産の増減と併せて、固定資産合計では16,381百万円の残高となる。流動資産は2,066百万円から2,323百万円に増加、現金預金が増加したことが要因となっている。

負債勘定は、固定負債で長期借入金の減少149百万円を中心に他の固定負債も減少し233百万円減少、流動負債は前受金が前年比で大きく増えたことにより152百万円の増加で1,297百万円となり、負債合計は前年度より81百万円減少の2,650百万円となった。

基本金の第1号基本金は、大学の取崩のため前年度対比286百万円減少し、繰越収支差額は336万円支出超過が減少し、9,852百万円となり翌年度へ繰り越すこととなった。

(4) 連続貸借対照表の状況

(単位 百万円)

科目	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
固定資産	15,659	16,495	17,001	16,669	16,381
流動資産	2,829	2,545	2,118	2,066	2,323
資産の部合計	18,488	19,040	19,119	18,735	18,704

固定負債	1,718	1,942	1,734	1,587	1,353
流動負債	1,334	1,312	1,320	1,145	1,297
負債の部合計	3,052	3,255	3,054	2,732	2,650
純資産の部合計	15,435	15,786	16,065	16,003	16,054
(内 翌年度繰越収支差額)	(△9,347)	(△9,300)	(△9,969)	(△10,188)	(△9,852)
負債及び純資産の部合計	18,488	19,040	19,119	18,735	18,704